



図

書

館

だ

よ

2026年  
5月29日発行

秋草学園高等学校 図書館

この号の発行日翌日は「体育大会」です。昨年度は当日・予備日ともに大雨でした。さて、今年はどうだったのでしょうか。

雨の日は、「晴耕雨読」の格言通りやはり読書がふさわしいです。しかし、雨は同時に本の敵でもあります。図書館で本を借りたら、バッグの安全な場所にしまって帰宅してください。また、返却時にローファーが濡れているなどの場合は、無理して図書館に来る必要はありません。秋草記念館の入口に「返却ポスト」があります。ポストに本を差し込むときに水濡れに気をつけてもらえればそれだけで結構です。大雨でどうしても濡れそうなときは、後日「返却日に大雨でした」といって返してくれば司書も納得です。

国語の教科書の作品を揃えています

「国語教科書文献リスト」は、図書館検索サイト OPAC のメニューリストにリンクがあります。教科書で気になった作品が図書館にあるかどうかすぐにわかります。

新編論理国語/大修館書店

672-カ 『ほどよい量をつくる』  
甲斐かおり(著)/インプレス

教科は国語ですが、「統計資料を活用する」勉強も国語なんですね。命題ごとに短い簡潔な文章です。

新編文学国語/大修館書店

913.6-セ 『図書館の神様』  
瀬尾まいこ(著)/マガジンハウス

「高校生活ってこんなだったなあ」と大人になって振り返るノスタルジーを感じます。みなさんも図書館による思い出をつくってくれるといいなあ……。

文学国語/数研出版

B933-ス 『ジーキル博士とハイド氏』  
スティーヴンスン(作)/岩波書店

二重人格や背反する性格のお話の元祖です。ミステリー系・ホラー系がお好きな人におすすめ。日常でも「ジキル」とか「ハイド」とかいろいろな場面で使用されていますよね。

言語文化/数研出版

913.3-イ 『恋する伊勢物語』  
俵万智(著)/筑摩書房

古典をそのまま読むのではなく、裏話(トークショー)的に解説してくれています。



論理国語/大修館書店

361-キ 『日本人の美意識』  
ドナルド・キーン(著)/中央公論社

日本を愛して国籍取得して、2019年に日本でなくなった著者の1967年の日本研究著述(十数ページ)です。

現代の国語/数研出版

S002-イ 『その情報はどこから? ネット時代の情報選別力』 猪谷千香(著)/筑摩書房

ニコニコ動画出身の著者が、ネットの新常識を教えてください。

新着コーナーの気になる本

913.6-ヤ-1 『小説葬送のフリーレン〜前奏〜』  
八目迷(著)山田鐘人(原作)/小学館

漫画・アニメでは追えないアナザストーリー、本編の前日譚です。また、アニメ第1期のノベライズ『小説アニメ葬送のフリーレン』も揃っています。紛らわしいですが、別物です。

司書の今月はこの本読みました

最近「聖地巡礼」という言葉を使う機会があり、『小説君の名は。』新海誠(著)/KADOKAWA/B913.6-リ)の同名映画で飛騨が聖地になったよなあと思いました。同じ「入れ替り」の映画『転校生』の尾道が聖地巡礼の元祖かもとの思いもめぐりました。

さて、本を読まない司書ですが、「入れ替り」「取り違え」などの作品を芋づるで読み直してみました。男女のきょうだいが入れ替わる少女小説『ざ・ちえんじ!』(氷室冴子(著)/集英社/B913.6-ヒ)は、平安文学『とりかえばや物語』(田辺聖子(現代訳)/文芸春秋/B913.6-カ)が原案です。また、『十二夜』(シェイクスピア(著)/筑摩書房/B932-ツ-6)も男女入れ替りです。「取り違え」というと『間違いの喜劇』(同前/B932-ツ-4)。これは双子の兄弟が2組という複雑な取り違え。「入れ替り」「取り違え」は得てして喜劇なのですが、『小説君の名は。』は「すれ違い」でもあり決して喜劇ではありません。「すれ違い」の芋づるは、約70年前の菊田一夫(脚本)の同名のラジオドラマ(小説化、映画化、テレビドラマ化しています)につながります。女湯がカラになったそうです。【横関】